

審査結果の要旨

平成 16 年 8 月 23 日（月）に専攻の博士論文公開発表会を行いその後審査委員会を開催し、各委員の本論文に対する意見交換を行い、以下の諸点をオリジナリティーのある研究とする点で意見が一致した。

1. 新規な Cry1A トキシン結合性 P252 蛋白を発見し、トキシンの結合から測定した解離定数から、この蛋白質が十分に受容体蛋白として働いている可能性を示した。
2. P252 のトキシン結合様式はアミノペプチダーゼとの結合で示されている GalNAc を介するものではないことを示した。
3. イムノヒストケミストリー的手法を用いて、P252 と Cry1A との結合は Cry1A 全結合の 30% 程であることを示した。また 2 重蛍光染色法を用いて P252 が中腸上皮細胞周辺に主に存在し、Cry1A トキシンの結合部位と一致することを示した。

これらの新発見は *Bacillus thuringiensis* の殺虫トキシンの殺虫機構を解明する上で重要な貢献をしたものと全審査委員が認め、本論文は学術博士の学位論文に十分であることが全審査委員によって認定された。